

アレルギー性結膜炎に備えよう

日野病院名誉病院長 井上幸次



アレルギーとは？

私たちの体を守るはずの免疫反応が、私たちの体にとってかえって不都合な反応を起こすことがあります、これが広い意味でのアレルギー反応です。そして中でも即時型過敏反応といわれる免疫反応が、一般的に私たちがアレルギー疾患と呼んでいる病気を起こしてきます。原因になる異物（抗原といいます）に反応する抗体が肥満細胞という細胞からのヒスタミンなどのいろいろな分子の放出を引き起こして発症します。アレルギーは起こる場所によってさまざまな症状を起こしますが、一番重症なのが、呼吸器に起こる喘息です。

アレルギー性結膜炎の症状と原因は？

アレルギー性結膜炎はこのような即時型過敏反応が、結膜（いわゆる赤目の部分）でおこったものです。アレルギー性結膜炎の特徴的な症状は何といっても目のかゆみです。そして目の充血や、軽い目やになども症状となります。ただ、若い人やアトピー性皮膚炎の人などでは重症型があり、その場合は目が痛くなったり、視力が低下したりすることもあります。

アレルギー性結膜炎のもっとも多い原因は花粉です。アレルギー性鼻炎も伴うことが結構あり、その場合は、鼻とくしゃみが出るという症状が加わります。日野病院の周りにはたくさんの杉がありますが、杉の花粉はアレルギーを引き起こす代表的な抗原であり、2月末頃になると目がかゆくなる人が増える原因となっています。また、家の中のダニやハウスダストも原因となりますが、花粉症が、季節がすぎれば症状がなくなるのと比べて、これらが原因の場合は1年中症状がおさまらず、重症になっていく場合もあります。これ以外に、コンタクトレンズの汚れが原因となる場合もあります。

アレルギー性結膜炎の検査は？

細隙灯顕微鏡という機械を使って、瞼の裏を見て、充血や乳頭増殖という小さいつぶつぶした盛り上がりがあるかを診ます。また、瞼の裏に細い濾紙をあてて、涙の中の抗体を検出したりする検査や重症例では血液を調べてアレルギーの原因になっている抗原を調べることもあります。

アレルギー性結膜炎の治療は？

アレルギー性結膜炎ではまず、かゆみを起こすヒスタミンを抑え、また肥満細胞からの分子の放出も抑える抗アレルギー薬の点眼を使用します。抗アレルギー薬点眼は点眼してすぐに効果が出るのではなく、しばらく点眼を続けていると効いてくるので、かゆい時だけさすのではなく、そういうシーズンがくればその間、継続的に使用することがとても大切です。また、この治療でなかなか治まらない例や重症例では、免疫反応や炎症をもっと強くおさえるためにステロイド薬や免疫抑制薬の点眼を使用することもあります。

毎年同じ時期に発症する人では、その時期になる少し前に眼科を受診し、抗アレルギー薬点眼を先にはじめておくと、軽い症状ですむといわれています。転ばぬ先の杖という感じでしょうか。

最近ではアレルギー性結膜炎を治療するのに、点眼ではなくて瞼に塗るクリームが使用できるようになっています。瞼の皮膚に塗っているのに瞼の裏の赤目の部分まで薬の成分が浸透して、しかも長く効果が保たれるというすぐれものです。そのため塗るのは1日1回でよいので助かります（実を言うと私自身も春先にはこれを使っていました）。このクリームも点眼同様にシーズンが始まる前に先手をうってその使用を開始するのがよいと思います。